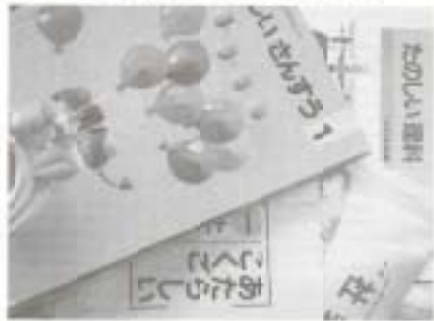




これは何でしょう



答えについての思い出などもお待ちしています。

- しめきり 4月14日(金)
 - あて先 〒783 南園市大浦甲二〇一 南園市企画課 親子クイズ係
 - 賞品 正解者の中から抽選で5人の方に図書券を進呈
 - ◎第15回親子クイズの答えは、耳かきでした。
- 第15回当選者発表(敬称略)
(応募総数21通)
- 本川菊吉 (岡豊町)
 - 別役泰保 (緑ケ丘)
 - 野口幸子 (久礼庄)
 - 岡本あさみ (大浦)
 - 橋本桂子 (岡豊町)

思い出がいっぱい

◆長女は、二歳になってはじめて耳そじを耳鼻科で体験しました。大きな耳アカが出るわ出るわ、本当にびっくりするくらい出てきました。育児書に、赤ちゃんの耳そじはお母さんがしないで耳鼻科ですることと書いてあったので、そのとおりにしちやたんです。でも、こんなに耳アカがっまっていったのは、さぞかし聞こえにくかっただろうと、とても反省しました。

◆子どものころ、父の耳そじをよくやったものです。終わるとごっくん、よちの聞こえたこと言ってくれました。うれしくて「また、やっちゃうかね」。今は自分でやっている事でしょう。

◆月に二、三回は耳ほりをしたくなる私。主人や子ども達をつかまえて、「ネエ、耳ほらせてー」とねだり、ほらせてもらえないと、イライラがおさまらず「ネエ、だれか、ほらせてー」。

◆私の祖母は、とつても耳かきが上手です。だから、私の子どものころは祖母がよく耳のそじをしてもらったものでした。あのころがとつてもなつかしいです。おばあちゃんありがとう。いつまでも元気であって下さい。

みんなの

広場



日差しも暖かくなり、次第に春らしくなるといふころ。外山にお住まいの岡林富子さんの元には、毎春つばめたちが訪れ、子育てに元気に飛び回ります。そんなつばめたちと岡林さんの、心温まる交流の様子が送られてきましたので紹介しましょう。

つばめ 岡林富子(外山)

毎年つばめが春を告げるかのようによつて来る。二羽で家の周りを飛び交っては電線で羽を休めて、頭をビヨコビヨコ振りながら、「ピーチクグイグイ」とおしゃべりする。「おばあさん今年もよろしくね」と言っているように聞こえる。そしてあちこち飛び回りながら、巣を造る場所を見回していたが、昨年の巣がきれいに残っているの、また、電線にとまって「ピーチクグイグイ」としゃべりだした。「今年はこの巣で大丈夫みたいね」「そうだね、まだ田んぼに泥んこがないし、この巣でよさそうね」としばらくおしゃべりして向こうへ飛んで行った。

を沈めるようにした。そして頭を上げては周囲の様子を見て、また、頭を沈めた。そうしているうちに、一羽のつばめがえさを持って来て食べさせている。これは卵を温めているに違いないと思った。

何日か過ぎると、お母さんつばめが巣を離れるようになった。見てみると卵の殻が二箇所落ちていた。「ほんごい!」赤ちゃんがかえった。何羽かなうと思っていたら、明るる日、頭が二つ「そぞぞと動いている。」「あら、たった二羽しか生まれでない」と思っていると、明るる日もう一羽、そしてまた一羽と、頭が四つ「そぞぞと動いている。」



はる

あれから何日かたっていた。お母さんつばめがえさを持って来ると四羽が一斉に頭を上げて、大きな口をいっぴいに向けておねだりしている。何とかかわいいむく毛が、頭にビツビツと生えている。えさを食べるよまたひっこんでしまう。何も見えなくなった。今度はお父さんつばめがえさを持って来た。四羽が一斉に口を開ける。それでも順番があるようだ。お父さんつばめも、お母さんつばめも、一生懸命えさを与えて、出て行くときは必ず白いふんをくわえて捨てる。行く。次から次へと一生懸命えさを与えていた。

にわかに悲鳴をあげだした。「おばあさん助けて、早く早く」と言っているようだ。次から次へと応援が来て、六羽くらいが円を書きのように飛び回って「ピーピー」と鳴いている。何事かと思っ出てみると、何と大きな蛇が巣をめぐってはい上がっているではないか。びつくりして竹で蛇をたたいた。蛇

はドサソソと音を立てて落ち、下の下駄箱の後ろへ隠れてしまった。つばめの赤ちゃんはんばか恐がったであろう、うすくまっていた。間もなくまた親つばめは口をこつて来て食べさせている。

三日くらいたって、また「たいへん、助けてー」と騒ぎだした。見るとまた、先日の蛇が巣をめぐってよじ登っている。「また来たよる。つばめを食べたら許さんぞね」

と言って、竹でたたいた。こんなことかあつて二度目には、もう許さんと思ひ、今度は強くだいた。よっぽど痛かったらしい。その後来なくなった。

つばめの赤ちゃんも大きくなって、巣からはみ出るくらいになった。高いところから落ちないでね。早く巣立ってくればいいのに、と思っっていたある朝、前の電線に六羽のつばめがとまって「ピーチクグイグイ、

おばあさんありがとう」と五分くらいおしゃべりして飛び立っていった。次の朝は、なんと十二羽のつばめが電線にとまって、口々に「ピーチクグイグイありがとう」とおれを言っ飛んで行った。私は「皆に遅れないように。雨にも嵐にも負けないで、暖かい国へお行き、また来年元氣な姿を見せてね」とお告げして送ってやった。

洋裁サークル

旧大塚女学院で活動中の、洋裁サークルを紹介しします。

教室に足を踏み入れると、机の上にならべられた型紙や布、ミシンなどが目に飛び込んできます。メンバーの皆さんは真剣なまなこで、作業に取り組んでいました。

現在、メンバーは二十人ほどで、週一回(木曜日)の活動日を心待ちにしているとか。代表の高橋美代さん、島内正子さんによると「いつもすぐに井戸端会議になってしまう。話に花が咲くと、手が止ま



つてしまうこともしばしばなんですよ」とのこと。おじやましている間にも、時おり楽しそうな談笑が聞こえ、和気あいあいとした様子。指導にあたっている木下真理子先生は、わからないことがあれば丁寧に

に根気強く教えてくれるそう。で、「行き詰まったらつい先生を頼ってしまう」とメンバーの信頼も厚いようです。

メンバーの皆さん、破れたものの薄いくらいはしたことがあるものの、自分でいんな作品を縫うのはこのサークルに入ってからの始めたという人がほとんど。型をとるのはなかなか手間がかかるらしいのですが、中には自分で型とりからすべてこなす人も、できたブラウスやスカート、スーツなどの作品は既製品と比べても引けを取らないで、皆さんかなりの腕前。裁縫の楽しみの一つに、いんな本を見たり、他の人の作品を見て、自分の作品をあれやこれやと考えることがあるそう。阪神大震災の影響か、最近の流行作品は、避難用のリュックサックだそうです。こんな自由で楽しい洋裁サークル、皆さん、ぜひご一試にどうですか。

